

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	放課後等デイサービス ハート愛				公表日	令和8年 2月 10日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		○メインの活動室、クールダウンのための隣室、法人全体用のホールなど使用することで、10人定員で適切に運用している。	○より多くの児童の受け入れへの保護者等のニーズはあるが、法人の将来構想との関係で今後検討したい。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		○	○昨年度末から職員の入れ替わりがあり、法人内の職員の応援ももらうなどして、従来どおりの質と安全の担保ができた。	○様々な手段の求人により、安定した事業所運営ができる職員確保に努めたい。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		○視覚優位の児童への掲示物の工夫等、各児童の障害特性を考慮しながら、精選した情報伝達に努めている。	○トイレ等は児童用の便器設置で、使いやすい状態になっているが、本来、大人用の居室のため、水道の高さ等改善の余地はある。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		○トイレの絶対量の不足はあるが、時間差使用及び大人の居室のトイレ借用など、なるべく児童に不利益がないようにしている。	○法人の将来構想との関係で、トイレの絶対数不足等ハード面は間もなく改善される物と考える。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		○本来の洋室、隣の通路の小ブース化、鞆で仕切られた空間の利用等により、児童のニーズに応えるようにしている。	○上記のトイレの絶対数の改善等は、法人の将来計画で年次的に解決したい。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		○日々の活動案のねらい明記、活動後の担当の反省及び他の職員の意見の記述により、限られた児童支援の時間を充実させている。	○児童支援だけでなく、職員の働き方改革の視点でもスリム化等を図っているが、まだ十分でないところはある。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		○保護者向けの評価表はもとより、保護者の集い、送迎時、モニタリング等での意向把握に努めている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		○日々の営み、行事ごとの振り返りと改善、月単位での活動計画の振り返り等必ず職員間で情報共有を図るようにしている。	○「一堂に会して」の情報共有の機会が困難な場合は、紙媒体の書き込み等で共有を図るようにしている。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		○障害児教育にも詳しい当法人の「第三者委員」に毎年支援状況を見ていただき、口頭で評価をいただき改善につなげている。	○評価の客観性、専門分野等を考慮し、複数の評価者を検討したい。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		○県の協会等主催の研修や、法人内研修及び事業所内研修の機会の確保をするとともに、何より日々のOJTを大切にしている。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		○昨年度のプログラムに基づく実践等を踏まえ、より精度の高いプログラムに生かすようにする。	○「5領域」による分類を今後さらに生かすようにしたい。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		○標準検査結果を参考にしつつ、軸足は児童に置き、児発管が中心となり保護者の思いを尊重して立案するようにしている。	○検査結果の見方等、より研修を深めておく必要がある。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		○常に全職員で情報共有を図ることで、児童の最善の利益につながるよう心掛けている。	○「情報共有」が完璧かという点、まだまだ十分でない。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		○前項目と同様。「理解」から支援の「実践」への具現化ができるよう心掛けている。	○前項目と同様。まだまだ十分でないところもある。要検討。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		○毎年度始めに、S-M社会生活能力検査を実施し、児童の能力の状況及び変容（成長）の状況を確認している。	○日頃のインフォーマルなアセスメントと照らし合わせ、より支援の精度を上げる必要がある。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		○「提供すべき支援」の4項目については、そのねらい及び支援内容も踏まえて支援に当たるように努めている。	○「地域支援・地域連携」については、少しずつ量的拡大、質の向上に努めているが、「移行支援」については、まだまだ積極的な働きかけが必要と感じている。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		○前月に計画立案担当が中心になって立案し、毎日の活動もその日の活動担当者を中心に話し合い、活動を組み立てている。	○各月の活動終了後には、その月の活動についての意見を出し合っており、翌月以降の立案の参考にしている。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		○5領域は活動の要素ととらえ、当事業所独自設定の8分野に基づく活動の中で取り入れてプログラム立案に当たっている。	○5領域を取り入れた立案は行っているが、児童に合わせた活動プログラムをチーム全体で話す時間を持たたい。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		○集団的活動の中で、また自由活動時間の中で放課後等デイサービス計画の目標達成に迫るよう心掛けている。	○アセスメント等で得られたそれぞれの児童の課題解決の時間を、より意識して取り組む必要がある。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		○その日の活動担当を中心に、必要な支援内容を共通理解し、方法、ツールなどについては、職員全員で準備に当たっている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		○全員で話合いし、「支援日誌」には担当の反省と共に、第3者的に「サブ」も必ず気付いたことを記録するようにしている。	○「改善点」に係る課題意識の高まりの記述は十分でないところがある。

	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		○その日のうちの「支援記録」実施、児童が帰宅時には、コピーを持ち帰る。「記録」は、そのまま「日誌」として活用する。	○日々の慌ただしさに、「ねらい」の達成状況把握については手薄になりがちである。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		○保護者との情報交換の中で、児童の成長に応じた見直しを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	○		○「4つの活動」は、有機的に結びつけてこそ活動が成り立つものであり、児童を中心に据えて、支援を行っている。	○毎月、活動実施の集計を行っているが、偏り等についてのチェック、分析等十分でない。
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		○「どの児童も自己決定は可能」との立場に立ち、分かる環境作りを努めている。	○これまで同様、立案段階で、児童の反応を想定しながら取り組む必要がある。
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		○そのように努力している。	○児発管が入れない会もあったが、今後はスケジュール調整等徹底して充実させたい。
関係機関や保護者との連携	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		○その時々で連携を取るようにしている。	○今以上に組織的つながり（体制）を強化したい。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		○情報共有及び連絡調整は、良くできている。必要に応じて保護者経由をお願いすることもある。	○学校の週報等の情報を保護者経由で教えていただいているところがある。全児童について情報共有できると良い。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解を努めているか。	○		○必要に応じてお願いするようにしている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		○保護者の依頼及び双方での話し合いの下に、提供するようにしている。	○「保護者の集い」等で、卒業生の保護者の方に、情報提供をいただくようにしているが、十分にできていない。要工夫。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		○元子ども総合療育センター職員等、障害児支援の専門家を招聘して、「職員・保護者合同研修」で助言等いただいている。	○次年度から機会を増やすことも検討したい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。		○	○事業所の立地から、良い方策を見いだせている。保護者によっては、居住地で関わりの機会を持っている児童もいる。	○引き続き、良い形を探りたい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		○		○相談支援事業所と連絡を取り合い、出席の機会を検討したい。
	34	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		○電話、連絡帳、送迎時、モニタリング等で得られた情報は絶えず共有するようにしている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		○毎年、「保護者・職員合同研修会」及び職員も同席する「保護者の集い」等で情報の発・受信に努めている。	○「保護者・職員合同研修」の機会は保護者から回数を増やす提案もあり、検討したい。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		○行っている。	
保護者への説明等	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		○提案をいただきやすい関係づくり、「実現」のための方策をその都度検討するようにしている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		○必ず行っている。	○なるべく対面とし、電話やLINEは補完的にする。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		○合同研修会の前には、必ず事前アンケートで悩み事を募り、直接、講師若しくは職員が応ずるようにしている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	○		○今年度も、従来どおり「保護者の集い」を実施し、研修時間、さらに研修時間後も保護者にとって貴重な情報交換の時間になった。	○今年度も積極的な「兄弟支援」への取組はできなかった。良い形を探りたい。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		○LINEや電話、送迎時にお聞きした内容はすぐに職員間で共有し、今後の対策を含めて保護者にお伝えするようにしている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		○週報、月報、法人の季刊の便り、HP、インスタグラム等で随時発信している。	○急を要するもの等はLINE活用によりお伝えしているが、内容拡散のリスクも絶えず考慮して利用したい。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		○十分に留意している。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		○障害のあるなしにかかわらず、日頃から合理的配慮に努めている。	○必要に応じて、写真、動画等活用するようにしたい。（日頃からの視覚データ記録に努める。）
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		○これまでどおり法人の「秋祭り」、事業所としては昨年度から始めた「餅つき」への近隣の住民の参加・協力をお願いしている。	○高齢者世帯が多いことを強みに、今後も様々な活動への参加・協力を促したい。

非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		○マニュアルを基に、様々な想定に対応して実施している。結果は保護者にお知らせしている。	○マニュアルの随時の見直しと保護者への通知が、今年は十分でなかったように思う。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		○昨年の反省を踏まえ、年間を通して火災、地震、風水害等の避難訓練を計画的に実施反省、そして保護者へ報告している。	○BSPの在り方について、より検討していきたい。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		○年度初めに必ず保護者に確認を取るようにしている。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		○年度初めに必ず確認するようになっている。現在は該当者なし。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			○当事業所は法人の他の事業所と共にあり、今後もよりよいBSPの在り方について検討していきたい。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		○安全計画に基づく諸訓練の結果については、その都度御家族へ報告するようになっている。	○現在の計画の見直しにより、より実効性の高い実践につながるようにしたい。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		○法人の様式を使って記入し、事業所内に対策等情報共有。法人内で共有。年度末に事業所内研修で再確認している。	○絶えずアンテナを高くし、「慣れ」による見逃しがないようにしたい。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		○まずはOJT。外部研修で得た知見は事業所内で共有。毎月の事業所内研修で管理者を中心に絶えず話題にしている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等サービス計画に記載しているか。	○		○現在は、放課後等サービス計画に記載する事案はない。児童との関わりは交渉で落としどころを探り、拘束が不要な状況作りに努めている。	○職員の入替わりもあるため、絶えず障害特性や対応の心構え等に係る研修を実施する必要がある。	